

学校教育ビジョン 【教育目標】 【目指す児童像】 【目指す学校像】		〇学校経営方針と重点取組 ～WE LOVE 片小いわくわく幸せな学校づくり大作戦～ ①学びを楽しむプロジェクト ②温かい心プロジェクト ③元気な体プロジェクト ④ふるさと愛プロジェクト ⑤安心安全な学校プロジェクト								
評価の項目	今年度の重点目標	具体的取組	主担当	現状及び取組状況	評価の観点	実現状況の達成度判断基準	備考	判定結果 (中間)	判定結果 (最終)	今後の改善策
①教育課程・学習指導	児童一人一人の基礎・基本の力の向上を目指す。	片小タイムや家庭学習などでAIDリルなどを活用し、個々の苦手や課題に合わせた個別最適なドリル学習に取り組む。また、学力調査の結果を活かし、重点問題を教科の単元に落とし込み、確実に実施していけるようにする。	教務主任	語彙力や漢字の読み書き・基礎的な計算力は個人差が大きく、思考・判断・表現をねらいとする授業でも、基礎基本の力が不十分のためにねらいを達成できないことも多い。	【成果指標】学年相当の基礎学力が身につけているか。	国語・算数の単元末テストの知識・技能の平均点が、 A 85点以上である B 75点以上である C 65点以上である D 65点未満である	〈学期ごとの評価テストの平均点〉C、Dの場合は、共通実践事項を見直し、検討する。			
	子どもに変わる学びを実践する。	子どもと教師で「目指す学びの姿」しつかりしたショートタイムを共有する。また、個別最適・協働的な学びを進めるにあたって、ゴールの意やつけたい資質・能力を明確化にし、丁寧な児童理解をもとにした変わる場面の設定や手立ての工夫を行う。	研究主任	変わる学びを進めることで、友達と考えを伝え合うことによる根拠を明確にして考えを伝えられるようになってきているが、各学年において変わる場面の設定に差が見られ、授業への効果的なICTの利用も個人差が見られる。	【成果指標】学年を通して、子どもに変わる時間の設定をしているか。	算数科を中心に、単元を通して子どもに変わる時間を1ヶ月に1単元以上設定している教員の割合が、 A 85%以上である B 75%以上である C 65%以上である D 65%未満である	〈教職員アンケート7月、12月〉C、Dの場合、取組の内容を再検討する。			
②生徒指導※いじめの未然防止	個や学級よさを認め合う集団づくりを行い、自己肯定感を高める。	いじめの未然防止に向け、温かい人間関係の構築に重点を置いた学級経営に努める。学習ルールを徹底させるとともに、グループエンカウンターや児童主体の活動を取り入れ、互いのよさを認め合い、助け合う児童の意識向上を図る。	生徒指導主事	生徒指導の4つの視点を活かした授業づくりや構成のグループエンカウンターを活用、また「褒めて伝えるで大げんか」として児童の良い言動はもちろん当たり前のことに対して認めて褒めることを心掛けたことで、児童の自己肯定感が少しずつはあるが高まってきた。	【成果指標】児童の自己肯定感が高まったか。	「自分にはよいところがある」と答えた児童の割合が A 85%以上である B 75%以上である C 65%以上である D 65%未満である	〈児童アンケート7月、12月〉C、Dの場合、取組の内容を再検討する。			
③キャリア教育・進路指導	児童の主体的な活動を重視する。	クラス会議や児童会活動、学校行事を通して、目標設定や成長をふりかえる場、認め合う場を設定する。また、キャリアパスポートを活用し、自己評価していく取組を計画的に進捗する。	キャリア教育	個に応じた目標を設定し、その達成に向けて粘り強く努力する児童が増えている。しかし、目標を立てることができず、意識を継続して取り組むことが難しい児童もいる。	【成果指標】学校生活で自分自身をふり返り、成長を実感できたか。	「目標を立てて努力できた」と答えた児童の割合が、 A 85%以上である B 75%以上である C 65%以上である D 65%未満である	〈児童アンケート7月、12月〉C、Dの場合は、取り組みを再検討する。			
④保健管理	基本的な生活習慣を確立するための指導の充実。特に歯科衛生管理に関する指導を重点的に行う。	自分の生活習慣を振り返らせることで、歯の健康管理の重要性を再認識させる。ほけんだよりでの啓発、児要委員会の活動、歯の健康に関する授業を行い、歯科衛生管理に関連した取り組みを続ける。	保健主事	本校は、未処置(未治療)のむし歯がある児童の割合が50.8%、むし歯経験のある児童の割合が73.9%となり、加賀市内の学校と比較してもむし歯罹患率が高く、むし歯の治療や予防の助行が必要である。	【成果指標】自分の生活を見直し、よりよくしようとする姿勢が見られたか。	「1日に2回以上歯みがきをしている」と答えた児童の割合が、 A 85%以上である B 75%以上である C 65%以上である D 65%未満である	〈児童アンケート7月、12月〉C、Dの場合は、取り組みを再検討する。			
⑤安全管理	児童の危機回避力の向上を図る。	普段から児童への適切な安全指導を行ったり、実際の場面を想定した避難訓練を実施したりすることで、児童の危機回避能力や対応力を高める。	安全点検担当教頭	児童の中には、安全やけがの防止に対する意識が低い、けがやトラブルにつながる場合があった。児童が危険を予測し、回避力や対応力を高める必要がある。	【成果指標】児童の危機回避能力を向上させることができたか。	児童が「安全に気を付けて行動できた」と回答した割合が A 85%以上である B 75%以上である C 65%以上である D 65%未満である	〈児童・教職員アンケート7月、12月〉C、Dの場合、改善策を検討する。			
⑥特別支援教育	児童のニーズに応じた適切な指導や支援を行う体制を整える。	支援が必要な児童の実態を付基き票で把握し、全職員で共通理解する機会を設ける。また、特別支援コーディネーターや児童生徒支援担当が中心となり、特別支援教育アドバイザー、専門相談員と連携を図り、個々の特性にあった支援を組織的に行う。	特別支援コーディネーター	定期的に行う児童理解の会では、全教職員で共通理解し、必要に応じてケース会議を開くことで、適切な支援方法を考えている。各学級に支援を必要とする児童が在籍するため、効果的な支援をどのように行いかを考え、組織体制を整える必要がある。	【努力指標】児童の困り感を把握し、組織的な支援体制を工夫したか。	「児童の実態を共通理解し、組織的な支援体制をとることができた」と答えた職員の割合が、 A 85%以上である B 75%以上である C 65%以上である D 65%未満である	〈教職員アンケート7月、12月〉C、Dの場合、取組の内容を再検討する。			
⑦組織運営・業務改善	ICTを活用した業務改善を図る。	Googleドライブの効果的な運用を行い、情報共有と会議時間や校務の短縮化を図る。	教頭	Nasからドライブに移行し、クラウド活用のよさを少しずつ実感し、片小ポータルの運用を試している状況である。外部人材や専門スタッフと協力し、業務の効率化を図っているが、お互いにサポートしながら校務の効率化を図ったり、内容を見直したりする必要がある。	【成果指標】ICTの活用により、質的・量的な業務改善ができたか。	「ICTの活用により、質的・量的な業務改善ができた」と答えた職員の割合が、 A 85%以上である B 75%以上である C 65%以上である D 65%未満である	〈教職員アンケート7月、12月〉C、Dの場合、運営委員会を取り組み体制を再検討する。			
⑧研修	計画的にOJTや若プロなどの研修を行う。	各教科の指導法や教員のニーズに合わせた内容に関する研修を年間を通して推進し、片小LOVE研、算数科を中心とした授業実践、若手早期育成プログラムやOJT・授業交流等の場を計画的に設定する。	若プロ担当	研修の担当者も、参加者も、意欲的に準備・参加している。研修を年間で通して推進し、片小LOVE研、算数科を中心として、日々の成果や課題について自覚化し、悩みを話しやすい職員集団づくりを意識していく必要がある。	【努力指標】研修会・授業交流等で「学び」を生かし、実践につなげることができたか。	「研修会・授業交流等で学んだことを生かし、実践につながった」と答えた職員の割合が A 85%以上である B 75%以上である C 65%以上である D 65%未満である	〈教職員アンケート7月、12月〉C、Dの場合、研修会・授業交流の持ち方や内容、職員集団づくりを検討する。			
⑨保護者・地域との連携	保護者や地域に、情報を積極的に発信する。	学校の教育活動を「学校、学年、学級便り」等を通じ、幅広く知らせ、学校HPやコドモンの積極的な活用を図る。	教頭	学年、学級学校便りやホームページを活用し、積極的に情報を発信しているが、保護者への伝わり方は十分とはいえない。学校行事の際には常にホームページの更新を行っているので、コドモンを通じて保護者へうまく伝わっている。	【満足度指標】保護者に学校の必要な情報や教育活動の様子がよく伝わっているか。	学校の情報発信について満足している保護者の割合が A 85%以上である B 75%以上である C 65%以上である D 65%未満である	〈保護者アンケート7月、12月〉C、Dの場合、改善策を検討する。			
⑩教育環境整備	教室や特別教室等、学びの教育環境を整える。	授業の教材教具や児童の学習道具などの整理整頓に努め、学びの空間を工夫し、子どもに変わる学びの環境を整える。	教頭	教室ベースや収納棚に限られている中で、学習道具の収納や出入れ、教科に関係する道具の安全な整頓などに定期的に確認するとともに、子どもに変わる学びの空間デザインを考える必要がある。	【努力指標】教室や特別教室などの学びの空間を整えることができたか。	「教室や特別教室など、児童の学びの空間を整えることができた」と答えた職員の割合が、 A 85%以上である B 75%以上である C 65%以上である D 65%未満である	〈教職員アンケート7月、12月〉C、Dの場合、職員作業を行う。			
学校関係者評価										